

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	桜美林大学
設置者名	学校法人 桜美林学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
リベラルアーツ学群		夜・通信		59		415	13	
芸術文化学群	演劇・ダンス専修	夜・通信		154		510	13	
	音楽専修	夜・通信			510	13		
	ビジュアル・アーツ専修	夜・通信			510	13		
ビジネスマネジメント学群	ビジネスマネジメント学類	夜・通信		56		412	13	
	アビエーションマネジメント学類 エアライン・ビジネスコース	夜・通信			412	13		
	アビエーションマネジメント学類 エアライン・ホスピタリティコース	夜・通信	356		412	13		
健康福祉学群	社会福祉専修	夜・通信		19		375	13	
	精神保健福祉専修	夜・通信			4	379	13	
	健康科学専修	夜・通信				375	13	
	保育専修	夜・通信			20	395	13	
グローバル・コミュニケーション学群	グローバル・コミュニケーション学類 英語特別専修	夜・通信		13		369	13	
	グローバル・コミュニケーション学類 中国語特別専修	夜・通信				369	13	

	グローバル・コミュニケーション学類 日本語特別専修	夜・通信			369	13	
	グローバル・コミュニケーション学類 グローバル教養専修	夜・通信			369	13	
航空・マネジメント学群	航空・マネジメント学類航空管制コース	夜・通信	69		425	13	
	航空・マネジメント学類整備管理コース	夜・通信			425	13	
	航空・マネジメント学類空港マネジメントコース	夜・通信			425	13	
	航空・マネジメント学類フライト・オペレーションコース	夜・通信			425	13	
(備考)							

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.obirin.ac.jp/about/information_disclosure/menu.html

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	桜美林大学
設置者名	学校法人 桜美林学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

桜美林学園 HP に掲載（学園 HP トップページ > 情報公開 > 理事・監事一覧）
<https://www.obirin.jp/disclosure/officer.html>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	立教大学総長、(一社)キリスト教学校教育同盟理事長	2021年4月1日～2024年3月31日	組織運営体制へのチェック機能
非常勤	(一社)文教夢倶楽部代表理事	2021年4月1日～2024年3月31日	組織運営体制へのチェック機能
非常勤	日本カーバイド工業(株)取締役	2021年4月1日～2024年3月31日	組織運営体制へのチェック機能
(備考)			

様式第2号の2-②【(2)-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置】

※ 様式第2号の2-①に掲げる法人以外の設置者（公益財団法人、公益社団法人、医療法人、社会福祉法人、独立行政法人、個人等）は、この様式を用いること。

学校名	
設置者名	

1. 大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織

名称	
役割	

2. 外部人材である構成員の一覧表

前職又は現職	任期	備考（学校と関連する経歴等）
(備考)		

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	桜美林大学
設置者名	学校法人 桜美林学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>授業担当教員がシラバスを登録した後、各教育組織長が点検を行う。 点検終了後、ポータルシステム「e-Campus」およびウェブサイトにて公開する。 3月に翌年度春学期および秋学期のシラバス登録期間を設け、各教育組織長点検後、3月末に公開する。3月の時点で担当者が決定していない秋学期の授業、または秋学期の内容に変更が生じた授業のシラバスについては7月に登録期間を設け、各教育組織長点検後、8月末に公開する。</p>	
授業計画書の公表方法	https://www.obirin.ac.jp/syllabus/
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>各科目の単位修得には、次の諸条件を満たす必要がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 年度または学期初めに履修登録をすること。 2. 登録をした科目の授業に2/3以上出席し、試験を受けること。 3. 授業料その他の学納金を所定の期日中に納入していること。未納者は試験を受けられない。 4. 成績評価がA・B・C・D・Sのいずれかであること。FまたはUの場合は単位を付与しない。 	

<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 予め設定した以下の方法により GPA を算出している。 「A」「B」「C」「D」「F」の5段階の成績評価に、次のとおりグレードポイント (Grade Point) を付す。 A=4.0 B=3.0 C=2.0 D=1.0 F=0 履修した授業科目の単位数にグレードポイントを乗じ、その合計を履修単位数の合計で除して算出したものが GPA となる。</p>	
客観的な指標の 算出方法の公表方法	https://www.obirin.ac.jp/about/grade_point_average.html
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 卒業の認定に関する方針や学生の修得単位数等を踏まえ、卒業を認定している。 卒業するためには、原則として4年以上在学し、所属する学群で定めるところにより124単位以上を修得し、かつGPAが1.50以上であることを必要とする。卒業を希望する者は、当該学期の所定の期日までに、「卒業希望届」を申請する必要がある。</p>	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	https://www.obirin.ac.jp/campus_life/registration_guide.html

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	桜美林大学
設置者名	学校法人 桜美林学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.obirin.jp/disclosure/financial.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.obirin.jp/disclosure/financial.html
財産目録	https://www.obirin.jp/disclosure/financial.html
事業報告書	https://www.obirin.jp/disclosure/financial.html
監事による監査報告(書)	https://www.obirin.jp/disclosure/financial.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: 事業計画書 対象年度: 2022年度)
公表方法: 学園公式Webサイト
中長期計画(名称: 第三次中期計画 対象年度: 2021~2026年度)
公表方法:

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.obirin.ac.jp/about/self_inspection.html

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: www.jihee.or.jp/kikanbetsu/2019/02jf_oberlin_university.pdf
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名	リベラルアーツ学群
教育研究上の目的（公表方法： https://www.obirin.ac.jp/about/information_disclosure/education_research.html#anc_01 ）	
（概要）広範な知識と深い専門性に裏付けられた思考力、分析力、柔軟な発想力を身につけた人間性豊かな人材の養成等を目的として、総合的教養及び専門的基礎学術に係る教育等を行います。	
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.obirin.ac.jp/academics/arts_sciences/policy.html ）	
（概要） リベラルアーツ学群は、多文化理解を推し進め、一つの専門性だけにとらわれない学際的思考を駆使し、優れた分析・表現力をもって学問を通じた社会貢献を行う、国際性を有した「自立した学習者」（Independent Learner）を育成します。 この基本理念を実現するため、本学群では以下に記載した項目の能力・資質を高め、それらを総合的に活用できる者に対し、卒業を認定し学位を授与します。また、この「卒業認定・学位授与の方針」は、「教育課程編成・実施の方針」において具現化されており、本学群の学びは全て学園の行動指針である「学而事人(がくじじん)(学びて人に仕える)」に結びつくようになっています。	
（1）国際性と多文化理解 国内外でグローバル化が進む現代において、アジア言語を含む多言語の語学力、他者とのコミュニケーション力、優れた国際性を身につけ、マイノリティに配慮しながら、文化・宗教・民族が異なる人々の相互的な多文化理解を推し進める能力を備えること。	
（2）学際的思考 何らかの専門的・体系的な知を自らの拠って立つ足場としながら、他の専門分野に対する理解や文理にまたがる専門横断的な知見、俯瞰的な視野をあわせもち、一つの専門性だけにとらわれない自由な学際的思考を行う能力を備えること。	
（3）分析・表現力 様々な問題を分析するために必要な文献読解力、情報リテラシー、数量的スキル、論理的・批判的思考力などの分析力と、分析内容を文章やプレゼンテーションで他人に分かりやすく伝える表現力を兼ね備えること。	
（4）学問を通じた社会貢献 現代世界が直面する様々な問題に対して、果敢に挑む挑戦する心、異なる学問的足場をもった人々と共に多角的・総合的に取組む協働性、学んだことを社会に還元して解決の方向性を示すことができる実践力・応用力を備えること。	

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

https://www.obirin.ac.jp/academics/arts_sciences/policy.html）

（概要）

本学群は、「卒業認定・学位授与の方針」に掲げた学修成果を得るために、その具体的な取り組みとして、教育課程を「基礎教育科目」、「LA 専門基礎科目」、「LA 専門科目」、「自由選択」の4つの区分に編成し、科目は講義、演習、実験、実習、実技といった授業方法を組み合わせて開講しています。また、カリキュラムの体系化のために「ナンバリング（科目ごとの関連性や難易度を示す）」を行い、科目の構造を明示し体系的な学修に役立つようにしています。なお、このような教育課程の編成、学修方法・学修過程、ならびに学修成果の評価の在り方については、以下のように定めています。

（1）教育課程の編成

①「基礎教育科目」は、本学群生として「卒業認定・学位授与の方針」に則った学修成果をあげるための基礎知識と技能を身につけるための科目です。カリキュラム内容は「コア科目」、「外国語科目」に分かれます。「コア科目」では、英語コア科目、キリスト教入門、アカデミックライティングⅠ、アカデミックプレゼンテーション、コンピュータリテラシーⅠ、数的思考と論理、リベラルアーツセミナーで構成され、学園の建学の精神をはじめとする教育目標を具現化するための知識とスキルを修得します。上記のうちリベラルアーツセミナーでは、本学群の学びについての理解を深め、Independent Learner としての自覚を持つとともに、大学での学びのために必要な知識と学修スキルを修得します。

②「専門基礎科目」は、専門科目へ進むための足場を固めるための科目です。カリキュラム内容は「LA 専門基礎科目」、「実践基礎科目」、「アカデミックスキル科目」に分かれます。「LA 専門基礎科目」では、各学問領域の基礎について学修します。学問領域は、人文学の領域（人文領域）、社会科学の領域（社会領域）、自然科学の領域（自然領域）の3つに分類されます。LA 専門基礎科目は、人文領域の専門基礎（人文基礎）、社会領域の専門基礎（社会基礎）、自然領域の専門基礎（自然基礎）からなり、これの学修を通し、各学問領域に関する基礎知識を学び、プログラム選択に向けた準備をします。また、入学時に選択した領域（自領域）の科目を多く修得することで領域特有の課題解決方法の基礎を身に付けると同時に、それ以外の領域（他領域）の科目を学びながら各学問領域の魅力や違いと多角的アプローチの重要性を学びます。

③「LA 専門科目」は、「LA 専攻科目」、「課題探究・実践科目」、「学群共通科目」から構成されます。LA 専攻科目は、専門的な知識をさらに高めるために用意された科目です。本学群では、人文学、社会科学、自然科学の3つの学問領域の専門性を高めるために、以下の専門型プログラムが提供されています。人文領域のプログラムとして、文学、言語学、哲学、宗教学、心理学、コミュニケーション学の6プログラム、社会領域のプログラムとして、歴史学、文化人類学、法・政治学、経済学、社会学、教育学の6プログラム、自然領域のプログラムとして、数学、物理学、化学、生物学、情報科学の5プログラムが提供されます。また、複数の学問領域の知識を必要とする課題の解決を目的として統合領域が設けられ、以下の統合型プログラムが提供されます。国際協力、アメリカ研究、アジア研究、日本研究、環境学、メディア・ジャーナリズム、博物館学、多文化共生、地域デザイン、データサイエンス、科学コミュニケーション、ビッグヒストリー、言語教育の13プログラムです。幅広い学びを通じた多角的視野の育成と判断力の養成という目的を達成するために、学生は2年次に、これらのプログラムの中から少なくとも1つのプログラムをメジャー、もう1つのプログラムをマイナーとして選択し、卒業までに認定される必要があります。さらに、「課題探究・実践科目」として、各分野に関連する課題を深く掘り下げながら解決方法について考察する

専攻演習と、実践的な活動により社会課題について理解する探究サービスラーニングが提供されます。学生は、少なくとも専攻演習又は探究サービスラーニングのいずれかを修了することで、課題解決力や実践力のさらなる向上を目指します。

④「自由選択」は、学生の多様な関心や目的を達成するために学生が自ら計画し、基礎教育科目や専門科目をさらに学修したり、学内外の授業科目の中から選択履修したりすることができるようになっています。教職教育科目、資格関連科目、留学関連科目もここに含まれます。さらに、他学群の専攻科目や他大学（海外留学、単位互換協定校、放送大学、首都圏西部大学単位互換協会加盟校など）の科目を修得することで、自身の知識の幅を広げることが可能になります。

(2) 学修方法・学修過程

①「基礎教育科目」の「コア科目」は、主として1年次に履修し、大学での学びのための基礎的な知識とスキルを修得します。「基礎教育科目」の「外国語科目」は、「語学を身につけた国際人の育成」という学園の建学の精神の実践から、16言語の外国語を選ぶことができます。「基礎教育科目」では、特に世界共通語となっている英語に力を注いでおり、日本語を母語とする学生は全員が入学当初よりプレースメントテストなどによって、習熟度別に編成されたクラスで段階を踏んで学修することができます。

②「専門基礎科目」は、主として1～2年次に履修し、学群での学びのための基礎的な知識とスキルを修得します。特に「LA 専門基礎科目」は人文基礎、社会基礎、自然基礎の3分野の授業が用意されます。自領域のLA 専門基礎科目を10単位以上学修することで専門科目に進むために必要な知識を修得するとともに、他の領域のLA 専門基礎科目をそれぞれ4単位以上学修することで、リベラルアーツ学群として学んでおくべき幅広い基礎知識の修得と、多角的・学際的視野の育成が計画されています。さらに、「実践基礎科目」では実践的な環境の下で学びを深める基礎サービスラーニングが提供されます。これらの導入教育を通じて、幅広い基礎知識を身につけると共に、プログラムの選択に向けて自らの専門性を高めるための情報と理解力を得ることができます。

③「LA 専攻科目」は、リベラルアーツ学群の教育の中核をなすものであり、30のプログラムから構成されています。各プログラムは、人文領域、社会領域、自然領域、および統合領域のいずれかの領域に分類されます。各プログラムはその分野の専門性を高めるための多くの科目から構成され、必修科目や選択必修科目が指定されています。メジャー指定されているプログラムにおいて32単位以上を修得すれば、卒業要件の一つであるメジャー認定を受けることができます。学生は自由にメジャーを選択することが可能であり、2年次秋学期に登録します。また、上記30のプログラムにマイナープログラムも用意されています。マイナーは指定された科目を16単位以上修得すれば、認定されます。そして、メジャーに認定されたプログラムの一つとは異なる領域のプログラムを少なくとも一つ選択し、マイナーまたはメジャーの認定を受けることが卒業要件（メジャー・マイナー認定）になっています。このような複数のプログラムをメジャー及びマイナーとして自由に選ぶことで、リベラルアーツ教育の特長である幅広い知識と多角的視野を身につけることができます。「課題探究・実践科目」においては、少なくとも専攻演習または探究サービスラーニングのいずれか一つを3年次に降を選択し修了することが卒業要件となります。この「課題探究・実践科目」を通して、自ら課題を発見し解決方法を考察する過程を経験し、探究力や実践力を身につけることができます。

④本学では、「アドバイザー制度」が設けられ、学生一人ひとりの学修計画や履修登録

に関する相談等をアドバイザーが担当しています。アドバイザーは各学年 15 人前後の学生を卒業まで継続して指導することが原則となっています。アドバイジングの内容は、学生自身の学修状況の確認や科目履修に関する学修指導等のアカデミックな内容が中心となります。また、教育支援事務による履修・学修相談も随時行われ、教職員が互いに連携した学修支援体制を整えています。

⑤本学群で教育課程の編成や実施方法を可視化するためのカリキュラム・マップ（ディプロマ・ポリシーの各項目をどのように育成しているのかを科目ごとに表形式にて表したもの）を用い、学生がどの科目を学修すれば「卒業認定・学位授与の方針」に掲げた項目の能力・資質を高めることが可能となるのかを把握できるようにしています。また、リベラルアーツ学群として学生が身につけたい能力や知識の育成のために、「履修モデル集」を作成し公開しています。この「履修モデル集」では、各プログラムがそれぞれの領域に応じて、目標とする能力や知識を実現するために履修を推奨する科目群が明示される形式となっています。学生は、このモデル集を参考にして履修計画を作成することにより、効率的な学修が可能となります。

(3) 学修成果の評価の在り方

①学修成果とは、カリキュラム・マップ等により示された目標に関して履修者はどの程度到達したのかを示すものです。したがって学修成果はそれぞれの科目で設定されています。

②学修成果の評価方法は、科目ごとのシラバスにおいて具体的に示されています。また、ルーブリック評価などを取り入れることによって、成績評価を分かりやすく可視化し、厳格に評価します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

https://www.obirin.ac.jp/academics/arts_sciences/policy.html）

(概要)

多文化理解を推し進め、一つの専門性だけにとらわれない学際的思考を駆使し、優れた分析・表現力をもって学問を通じた社会貢献を行う、国際性を有した「自立した学習者」（IndependentLearner）を育成していきます。また、興味・関心や社会文化的背景の異なる多様な学生が集い、学び、知的刺激を与え合える教育の機会を提供します。

そのため、本学群の学びは、幅広い学問に触れると同時に、本人の関心に応じて人文学、社会科学、自然科学のいずれかをより深く学び、掘って立つ足場、すなわち、学問的基礎を修得することからはじまります。

学生は、学問的基礎の修得を続けて各分野の専門性を深め、分析・表現力を養うと同時に、他の専門分野に対する理解や専門横断的な知見、俯瞰的な視野をあわせもち、一つの専門の枠に捕らわれない自由な学際的思考を身につけていきます。加えて、学生は、留学やサービス・ラーニングなどの体験を通して、自らが深い興味関心を抱いた事柄や、関わりを持ったコミュニティや社会の課題と向き合い、国際性や多様な文化を理解する力、学問を通じた社会貢献ができる力を身につけます。

このような力を養う理由は、未来を予測することが困難な時代の中で生き抜くためには、主体性や多様な価値観を尊重できる態度が求められているからです。

【求める学生像】

学群の教育システムに共感し、学修や経験を通して、成長を望み、これからの時代

に自らの学びと経験を以て、貢献しようとする人たちを国や地域を問わず求めます。
 また、ここでの学びをはじめようとする人たちには、以下の素養を身につけておくことを求め、各選抜において、その資質をはかります。

- (1) 高等学校までに身につけておくべき基礎学力を有する者
- (2) 自ら進んで学ぶ強い意欲と自立心を有する者
- (3) 広い分野の基礎的学力を持ち、人文学、社会科学、自然科学の領域・専門分野への強い関心を有する者
- (4) 新しい分野への探求心と新たな体験へ挑戦する意欲を有する者
- (5) 建学の理念を理解し、他者に奉仕し、ともに向上する意欲を有する者

学部等名 芸術文化学群
教育研究上の目的（公表方法： https://www.obirin.ac.jp/about/information_disclosure/education_research.html#anc_01 ）
（概要） 広範な知識と深い専門性に裏付けられた思考力、分析力、柔軟な発想力を身につけた人間性豊かな人材の養成等を目的として、総合的教養及び専門的基礎学術に係る教育等を行います。
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.obirin.ac.jp/academics/performing_visual_arts/policy.html ）
（概要） 本学群は、キリスト教精神に基づいた教養豊かな識見の高い国際的人材を育成することを基本理念とし、芸術分野における専門知識と技能を身につけ、グローバルな視野をもって芸術文化の振興に貢献することを目的としています。 そのため、本学群では目的実現のため編成されたカリキュラムのもと、定められた在学期間に通算 GPA 1.50 以上、124 単位以上を修得し、以下の知識、技能、能力を身につけた者に対し、卒業を認定し学士の学位を授与します。また、この「卒業認定・学位授与の方針」は、「教育課程編成・実施の方針」において具現化されており、本学群の学びは全て学園の行動指針である「学而事人(がくじじじん)(学びて人に仕える)」に結びつくようになっています。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 専攻する各分野における知識・理解 芸術分野における幅広い知識と教養を修得し、専攻する分野において専門家として必要な知識・技能を修得し、幅広い視野と豊かな感性を以って積極的に活動することができる。 (2) コミュニケーション能力 国内外の芸術文化への理解を深め、語学力やプレゼンテーション能力を高め、グローバル社会の中で自分の思いや考えを的確に表現し、他者と協調・協働することができる。 (3) 問題発見・解決能力 芸術の理論と実践を結合し、複雑多様化する社会の諸問題を発見する分析力、洞察力を養い、それらの問題や課題に対して、芸術活動を通じ専門的な能力を活用して適切な対応を模索し実行することができる。 (4) チームワーク、リーダーシップ 芸術を学ぶことで獲得した「表現力」「構築力」「創作力」を活かし、時には他の領域・分野と協働し、リーダーシップを発揮して社会に対してより良い方向性を示し、目標実現に向けて牽引することができる。 (5) 市民としての社会的責任

芸術活動を通じて社会における芸術文化の発展に寄与する使命感を持ち、社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使しつつ、新たな芸術的価値を創造することで社会の発展のために積極的に関与できる。

(6) 生涯学習力

授業及び課外活動における芸術の探究や様々な学修体験を通して、豊かな人間性と学修に対する継続的な強い意欲を身につけ、卒業後も目標に向かってあきらめることなく、自律・自立して学修を継続することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：※URLを入力してください。）

（概要）

本学群は、「卒業認定・学位授与の方針」に掲げた学修成果を得るために、その具体的取組みとしての教育課程を「学群指定科目」、「専攻科目」及び「自由選択」という3つの区分に分けて編成しています。授業は、講義、演習、実習、実技のいずれかの方法、又はこれらの併用により行います。また、カリキュラムの体系化のために「ナンバリング（科目ごとの関連性や難易度を示す）」を行い、科目の構造を明示し体系的な学修に役立つようにしています。

このような教育課程の編成と、学修方法・学修過程、学修成果の評価の在り方を以下のように定めています。

(1) 教育課程の編成

①「学群指定科目」は、本学群生として「卒業認定・学位授与の方針」に則った学修成果をあげるための基礎的な知識と技能を身につけるための科目であり、「キリスト教理解」「コンピュータリテラシー」「論理とコミュニケーション」「外国語」「キャリアデザイン」の5つの分野から編成されます。

②「専攻科目」は、学群指定科目で得た知識・技能を踏まえ、専門分野について理解を深めるために設置する科目で、「学群共通科目」と「専攻共通科目・専修科目」から編成しています。学群共通科目は教養科目および3コースに共通する芸術科目から構成されます。「学群共通科目」を学ぶことで、学生は教養を身につけ、自コース以外の分野にも視野を広げることができます。「専修科目」はコース別に設置した科目で、専門的基礎理論や表現方法などを学びます。このように本学群のカリキュラムは基礎教育から専門教育へ、さらに「専攻共通科目」である「専攻演習Ⅰ・Ⅱ」、「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」へと関連性をもって能力・資質を引き上げられるように体系化しています。

③「自由選択」は、学生の多様な関心や目的を達成するために学生が自ら計画し、学内外の授業科目の中から自由に選択履修することができます。他専修、他学群、他大学等の科目を修得することで、自らの専門性をさらに深める、あるいは自身の知識の幅を広げることが可能になります。

このように本学群のカリキュラムは総合大学ならではの視野の広いプロフェッショナルを育成する構成となっています。

(2) 学修方法・学修過程

①多様な入学者に対する初年次教育として「学群指定科目」を設置しています。「学群指定科目」は全員対象の科目であり、専攻科目の授業内容を理解する上で必要な基礎

知識を養成します。「キリスト教理解」分野によって 建学の精神、及びキリスト教に関する理解を深めます。また、「コンピュータリテラシー」「論理とコミュニケーション」「外国語」「キャリアデザイン」の各分野を履修することで大学での学修に必要なスキルを修得します。

さらに「学群共通科目」では「文化と芸術」「人間と社会」「生命と自然」の各分野を通じて幅広い教養を身に付けます。このように本学群における学修が円滑かつ充実する目的で学群指定科目と学群共通科目を設置しており、一部必修となっています。

②国際人を育てることが桜美林学園の建学の精神であり、「学群指定科目」の英語コアを必修としています。学生は入学時のプレースメントテストによって習熟度別クラスに分かれ、各自のレベルに合わせて段階を踏んで英語を学修することができます。また、約 4 か月間の留学 (GO プログラム) 制度が設けられ、さらに語学能力を高めることもできます。

その他の外国語科目は、「履修ガイド全学共通」サイトの「全学共通科目」に記載されています。開講キャンパスが異なる場合があるため、本学ホームページ→「学生生活」→「授業時間割関連情報」→「学群ごとの注意事項」→「芸術文化学群」を併せて確認してください。

③本学群のような芸術分野では、創造的で主体的に学ぶことが求められるため、「専攻科目」では講義、演習、実習、実技といった多様な方式の授業を開講しており、学生が自由に履修計画を立てることができます。科目の難易度をナンバリングで示し、先修条件を設けるなど基礎から応用へと、学生自身の成長に合わせて体系的、段階的に学べるよう設定しています。

また、サービス・ラーニング科目 (授業+学外フィールド作業)、アウトリーチ、課外活動など能動的に取り組む地域社会参加プログラムも積極的に行っています。

④本学では「アドバイザー制度」を設け、学生一人ひとりの学修計画や履修登録に関する確認などを行っています。アドバイザーは、学生自身が専攻する分野での科目履修が適切かつ効果的となるような学修指導を行っています。また、教育支援事務による履修・学修相談も随時行われ、教職員が一丸となった学修支援体制を整えています。

⑤学群で開講する各科目の目的、到達目標、習得する知識・技能の関連性を図示したカリキュラム・マップにより、教員と学生が可視化されたカリキュラムを共有することができます。これにより教育全体を俯瞰することができ、学生がどの科目を学修すれば「卒業認定・学位授与の方針」に掲げた項目の能力・資質を高めることが可能となるのかを把握できるようにします。

⑥卒業後の進路指導として 2 年次および 3 年次に「キャリアデザイン」を設置し、学生の意識を高めるよう配慮しています。

また、3 年次からは本学群専門のキャリア・アドバイザーが付き、学生の相談を受けアドバイスをを行います。また、インターンシップを科目として設置しており、学外での研修が卒業後の進路を考える上で役立つだけでなく、社会での実体験が大学での学修成果向上にも役立っています。

(3) 学修成果の評価の在り方

①学修成果は「卒業認定・学位授与の方針」に定められた項目と、学修方法・学修過程

(カリキュラム・マップ等)により示される各科目が目標とする学修の到達度が、学生自身にとってどの程度であるかを示すものです。したがって学修成果は科目それぞれで設定されています。

②学修成果の評価方法は、科目ごとのシラバス(授業計画)において具体的に示します。また、ルーブリック評価など(成功の度合いを示すレベルや、それぞれのレベルに対応するパフォーマンス(プレゼンテーション、協同作業など)の特徴を示した評価基準からなる表)を取り入れることによって、成績評価を分かりやすく可視化し、厳格に評価します。

入学者の受入れに関する方針(公表方法：
https://www.obirin.ac.jp/academics/performing_visual_arts/policy.html)

(概要)
グローバル化する社会において、他者理解を行う上で人間の営みと密接な関わりを持つ文化に対して、理論や歴史、表現を学ぶことは、多様な文化的背景を持つ人々とともに生きる力を身につけることとなります。また、様々な創作活動の中で行われる試行錯誤は、予測困難な問題を解決に導くことのできる素養を高めることとなり、こうした力を持つ人材が、これからの社会で求められます。

一方、芸術の創作活動を通じて社会における芸術文化の発展に寄与する人材、専門家として作品やパフォーマンスを提供する人材は、高度な知識基盤社会において必要不可欠な存在であります。

そこで学群制という教育システムを通して、「演劇・ダンス」「音楽」「ビジュアル・アーツ」の三つの隣接する学問領域を配置し、自らが深い興味関心を抱いた表現やコミュニケーション方法と向き合う中で、必要とされる専門的知識と技術を身につけていきます。

【求める学生像】

学群の教育の考えに共感し、学修や経験を通して、成長を望む人たちを国や地域を問わず求めます。

また、ここでの学びをはじめようとする人たちには、以下の素養を身につけておくことを求め、各選抜において、その資質をはかります。

- (1) 高等学校までに身につけておくべき基礎学力を有する者
- (2) 創作活動や芸術鑑賞を通して、芸術の学術的な学びに求められる意欲と関心を有する者
- (3) 自ら進んで学ぶ強い意欲と自立心を有する者
- (4) 芸術、文化、人、表現、コミュニケーション等に強い関心を持ち、創作活動やアートマネジメント等に積極的に挑戦する意欲を有する者
- (5) 建学の理念を理解し、他者に奉仕し、ともに向上する意欲を有する者

学部等名 ビジネスマネジメント学群

教育研究上の目的(公表方法：
https://www.obirin.ac.jp/about/information_disclosure/education_research.html#anc_01)

(概要)
●ビジネスマネジメント学群ビジネスマネジメント学類
国際社会に必要なビジネス感覚を養い、広範な知識から発想し、意思決定の行える、新しい経営マインドを備えた人材の養成等を目的として、幅広い職業人養成に係る教

育等を行います。

●ビジネスマネジメント学群アビエーションマネジメント学類

確かな知識・技倆を身につけ、新しい経営マインドを備えた航空業界で活躍する人材の養成等を目的として、専門的な職業人養成に係る教育等を行います。

卒業の認定に関する方針（公表方法：

https://www.obirin.ac.jp/academics/business_management/policy.html）

（概要）

本学群は、「国際性」に優れ、「奉仕の精神」と「おもてなしの心」、「コミュニケーション能力」と「情報リテラシー」を兼ね備え、ビジネス実務において優れた「マネジメント能力」を有し、社会の問題を他人事として放置しない“高度なビジネスパーソン”を育成します。

そのため、本学群では、本学の「卒業認定・学位授与の方針」を踏まえた上で、定められた課程において以下の能力・資質を修得し、建学の精神である「学而事人(がくじじん)（学びて人に仕える）」にしたがって、体得した知識を総合的に活用できる学生に対し、卒業を認定し学位を授与します。

（１）コミュニケーション能力と多文化・異文化に関する知識の理解：国際感覚急速にグローバル化するビジネス社会において強く求められるところの、円滑なコミュニケーションをとることができる「語学力」、とりわけビジネスの国際共通語である英語力と、これを活用するために不可欠な国際性、共感力を兼ね備えること。

（２）倫理観・奉仕の精神とおもてなしの心
ビジネスパーソンとしての「奉仕の精神」に、我が国の文化として注目される「おもてなしの心」を織り交ぜ、社会の問題を他人事として放置しない、より高度な職業感覚を備えること。

（３）コミュニケーション能力と情報リテラシー
ビジネスにおいて必要なコミュニケーション能力を備えるとともに、ビジネス組織におけるリーダーシップとフォロワーシップを理解し実行することができる。また、加速し続ける社会の情報化に対応する「情報リテラシー」、先見力を備えること。

（４）理論と実践のバランスのとれたマネジメント能力
ビジネス実務において、現場に即したビジネス理論の知識と、実践的なマネジメント能力の両方をバランスよく備えること。

ビジネスマネジメント学群 ビジネスマネジメント学類

本学類は、以下の基本要件を満たす学生に対し、「学士（経営政策学）」を授与します。

（１）倫理観
“高度なビジネスパーソン”としての常識とマナー、倫理観とモラルを備えていること。

（２）論理的思考力・自己管理能力
ビジネス実務の基本とマネジメント能力を備え、論理的な思考と意思決定ができ、自らのキャリアについて明確なビジョンを持つとともに、絶えず学修して専門性を高める努力することができること。

(3) チームワーク

自分とは異なる様々な背景を持つ人々との相互理解に努めることが可能で、相手の気持ちを思いやる豊かな人間性を持ち、組織の中で協力しながら最後まで仕事を進めることができること。

(4) 問題解決能力

ビジネス現場において日々生ずる様々な問題を感じ、失敗をおそれず解決のための行動を起こすことができ、たとえ困難が生じたとしても、あきらめず最後までやり抜くことができること。

(5) コミュニケーション能力と情報リテラシー

国際的ビジネスで使いこなすことのできる語学力と、様々な情報を有効活用できる能力を備えること。

本学類のカリキュラムに基づく卒業要件は以下の通りです。

- ①「基礎教育科目」44単位を修得していること。
- ②「専攻科目」の「専門基礎科目」10単位以上、「実習・演習科目」2単位以上、「論文・レポート科目」2単位以上を修得していること。
- ③「専門応用科目」のビジネスプログラムもしくはマネジメントプログラムから1つを選択し、そのプログラムに属する科目群から選択28単位、その対となるプログラムに属する科目群から選択14単位を修得していること。
- ④「基礎教育科目」及び「専攻科目」については、必要な単位及びこれに学生が自由に選択した単位を加え合計124単位を修得し、かつ通算GPAが1.50以上であること。

ビジネスマネジメント学群 アビエーションマネジメント学類

本学類は、以下の基本要件を満たす学生に対し、「学士（アビエーションマネジメント）」を授与します。

(1) 倫理観

“高度なビジネスパーソン”としての常識とモラル、倫理観、マナーを備えること。

(2) 専攻する各分野における知識・理解と論理的思考力

ビジネス実務の基本とマネジメント能力を備え、論理的な思考と意思決定ができ、自らのキャリアについて明確なビジョンを持つとともに、特に、エアラインビジネスに関わる専門的な知識・技倆を身につけ、航空分野での有用な人材となりうる能力を有すること。

(3) チームワーク

自分とは異なる様々な背景を持つ人々との相互理解に努めることが可能で、相手の気持ちを思いやる豊かな人間性を持ち、組織の中で協力しながら最後まで仕事を進めることができること。

(4) 問題解決能力

ビジネス現場において日々生ずる様々な問題を感じ、失敗をおそれず解決のための行動を起こすことができ、たとえ困難が生じたとしても、あきらめず最後までやり抜くことができること。

(5) コミュニケーション能力と多文化・異文化に関する知識の理解

エアラインビジネスで求められる語学力を有すること。そのコミュニケーション能力を駆使して異文化を理解し、より広い視野に立ち、国際的ビジネスセンスを持って行動できるよう努力を続け得ること。

本学類のカリキュラムに基づく卒業要件は以下の通りです。

- ①「基礎教育科目」34単位を修得していること。
- ②「専攻科目」の「学類内専門基礎科目」および所属するコースの「専門応用科目」から各自が選択した30単位、および「実習・演習科目」「学群共通科目」「学類共通科目」「学類内専門基礎科目」「学類内各コース専門応用科目」「論文・レポート科目」の中から各自が選択した30単位、計60単位を修得していること。
- ③「基礎教育科目」及び「専攻科目」については、必要な単位及びこれに各自が自由に選択した自由選択の単位を加え、計124単位を修得し、かつ通算GPAが1.50以上であること。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

https://www.obirin.ac.jp/academics/business_management/policy.html)

（概要）

本学群は、「卒業認定・学位授与の方針」に掲げた学修成果を得るために、その具体的取組みとしての教育課程を「基礎教育科目」、「専攻科目」及び他学群や他大学、各種技能審査等を単位認定する「自由選択」という区分に分けて編成し、科目は講義、演習、実験、実習、実技といった授業方法を組み合わせた授業を開講しています。また、カリキュラムの体系化のために「ナンバリング（科目ごとの関連性や難易度を示す）」を行い、科目の構造を明示し体系的な学修に役立つようにしています。本学群では、様々な業種・職種で活躍できる“高度なビジネスパーソン”を育成するため、以下の基本方針をもとに、高度な学力と専門的能力の修得に向けた科目を効果的に配置しています。

（1）教育課程の編成

①国際性豊かな人材の養成に向けて、本学群独自の4ヵ月間の留学やテーマ別の短期の海外ビジネス研修により、海外に出て学ぶ機会を設けるとともに、キャンパスライフを通して国際感覚を身につけることができる学修環境を整えています。同時に、自分の将来設計に合わせた語学力、とりわけビジネスの国際共通語である英語力の修得に向けた多様な学修機会を提供します。

②奉仕の精神に、おもてなしの心を織り交ぜた、高度な職業感覚を修得するため、多数の講義科目によって理論のベースを構築し、そのうえで、豊富に取り揃えている実習・演習、専攻演習によって実践を通して学んでいきます。

③授業科目は、教員の一方的な講義に留まらず、課題レポート作成、学生の発言やプレゼンテーション、グループワークなどのアクティブ・ラーニング、反転授業の要素を積極的に取り入れています。「専攻演習」は、学生主体の様々な活動の中で、リーダーシップとフォロワーシップを理解し実践する機会となり、コミュニケーション能力を醸成します。同時に、学びの中で、各種の情報機器を駆使しながら、情報の収集・分析・活用・発信などの情報リテラシーを修得することができます。

④ビジネスの現場に即した理論と、実践的なマネジメント能力の両方をバランスよく学べるようカリキュラムを構成しています。特に、学生の多様な将来設計にあわせて、それぞれ独自の科目履修ができるよう体系化しています。

（2）学修方法・学修過程

①1年次には、「ガイダンス科目」を通じて社会人基礎力（前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力）や専門分野の授業内容を十分に吸収できる基礎学力を身につけます。

②外国語科目を通じてビジネスの現場で必要とされる実践的な語学力を身につけ、英語については、学類・コースで定められたTOEIC®目標スコア達成を目指します。

③ビジネスマネジメント学類・アビエーションマネジメント学類共通の学修・研究テーマとして、ビジネスの現場で生ずる様々な問題を解決するための「マネジメント」能力を身につけていきます。

（3）学修成果の評価の在り方

①学修成果は「卒業認定・学位授与の方針」に定められた項目と、学修方法・学修過程（カリキュラム・マップ等）により示された、科目が目標とする学修の到達度が学生自身にとってどの程度であったかを示すものです。したがって学修成果は科目それぞれで設定されています。

②学修成果の評価方法は、科目ごとのシラバスにおいて具体的に示します。また、ルーブリック評価など（成功の度合いを示すレベルや、それぞれのレベルに対応するパフォーマンス（プレゼンテーション、協同作業など）の特徴を示した評価基準からなる表）を取り入れることによって、成績評価を分かりやすく可視化し、厳格に評価します。

ビジネスマネジメント学群 ビジネスマネジメント学類
様々な業種・職種で活躍できる“高度なビジネスパーソン”を育成するため、本学類では、以下のようにカリキュラムを構成しています。

（1）教育課程の編成

①「基礎教育科目」は下記の通り構成しています。

- ア) 「学群指定科目」：本学の建学の精神や大学における学修の基礎を学びます。
- イ) 「外国語科目」：ビジネスの現場に必要な実践的な語学力（英語）の修得を目指す科目です。英語については「TOEIC®」600点を卒業時の達成目標とします。
- ウ) 「ガイダンス科目」：学類の授業内容を十分に吸収できる基礎学力を養成します。

②「専攻科目」は下記の通り構成しています。

- ア) 「学群共通科目」：ビジネスマネジメント学類とアビエーションマネジメント学類に共通する科目（「専攻演習」、「特別講義」など）です。
- イ) 「実習・演習科目」：ビジネス現場の実務能力の修得を目指す科目です。
- ウ) 「専門基礎科目」：専門的技能の修得に向けた経営の基礎学力向上を目指す科目です。
- エ) 「専門応用科目」：ビジネスパーソンに必要な特定範囲の専門的学力・能力をバランスよく修得できるよう、科目全体をまず知識・技能、業種・業界（ビジネス）そして職種・機能（マネジメント）の視点から、ビジネスプログラムとマネジメントプログラムに大別し、それぞれをさらに各4種類に分けた、合計8種類の科目群を設定しています。
- オ) 「論文・レポート科目」：学修成果の集大成として、研究視点で論文をまとめる、あるいはビジネス視点でレポートをまとめる能力の修得を目指す科目です。

（2）学修方法・学修過程

①本学類の「専門応用科目」は、「ビジネスプログラム」と「マネジメントプログラム」の2つのプログラムで構成されています。「ビジネスプログラム」は、特定の業種・業界に焦点をあてて「専門応用科目」を学ぶため、将来、特定の業種・業界で働いているイメージを強く持っている学生に適しています。これに対して「マネジメントプログラム」は、経営における特定の機能や職種に焦点をあてて「専門応用科目」を学ぶため、将来、企業の特定の部署で働いているイメージを持っている学生や、まだ自分の将来の職業像を確立していない学生に適しています。

②学生の多様な将来目標に応えるために、科目履修の仕方を多数の「学修ストーリー」にまとめて提示しています。

(3) 学修成果の評価の在り方

①学修成果は「卒業認定・学位授与の方針」に定められた項目と、学修方法・学修過程（カリキュラム・マップ等）により示された、科目が目標とする学修の到達度が学生自身にとってどの程度であったかを示すものです。したがって学修成果は科目それぞれで設定されています。

②学修成果がどのように評価されるのかは、シラバスにおいて具体的に評価方法を科目ごとに記載しています。また、ルーブリック評価など（成功の度合いを示すレベルや、それぞれのレベルに対応するパフォーマンス（プレゼン、協同作業など）の特徴を示した評価基準からなる表）を取り入れることによって、成績評価を分かりやすく可視化することと厳格に評価するようにします。

ビジネスマネジメント学群 アビエーションマネジメント学類
様々な業種・職種、わけてもエアラインビジネスの分野で活躍できる“高度なビジネスパーソン”を育成するため、本学類では、以下のようにカリキュラムを構成しています。

(1) 教育課程の編成

①「基礎教育科目」は下記の通り構成しています。

ア) 「学群指定科目」：本学の建学の精神や大学における学習の基礎を学びます。

イ) 「ガイダンス科目」：学類の授業内容を十分に吸収できる基礎学力を養成します。

ウ) 「外国語科目」：ビジネスの現場で必要な実践的な語学力の習得を目指す科目です。

「TOEIC®」600点を卒業時の達成目標とします。なお、「フライト・オペレーションコース」においては「TOEIC®」650点を操縦実技科目履修の要件としています。

②「専攻科目」は下記の通り構成されています。

ア) 「専門基礎科目」：専門的技術の修得に向けた航空分野の基礎知識の獲得を目指す科目です。

イ) 「専門応用科目」：コースごとの専門的知識・技術の修得を目指す科目です。

ウ) 「実習・演習科目」：ビジネス現場の実務能力の修得を目指す科目です。

エ) 「学群及び学類共通科目」：学群内、学類内に共通する科目です。

オ) 「論文・レポート科目」：学修成果の集大成として、研究視点で論文をまとめる、あるいはビジネス視点でレポートをまとめる能力の修得を目指す科目です。

(2) 学修方法・学修過程

①本学類には、「エアライン・ビジネスコース」「エアライン・ホスピタリティコース」「フライト・オペレーションコース」の3つの専攻コースを置いています。「エア

ライン・ビジネスコース」では、航空関連企業のマネジメント分野で必要とされる理論や知識を修得します。空港、航空会社など航空輸送に関わる分野での1～2週間の実習が専攻科目となっています。

「エアライン・ホスピタリティコース」では、空港・機内でのサービスを担うグランドスタッフや客室乗務員の分野に必要な理論やスキルを修得します。2年次秋学期にビジネスマネジメント学群GO（グローバルアウトリーチ）プログラムの一環として予定される約4か月の留学が組みこまれています。

「フライト・オペレーションコース」では航空機の操縦を担うパイロットになるために必要な専門知識と技倆を修得します。2年次秋学期より4年次春学期まで、約1年半、海外のフライト訓練学校での飛行訓練を経て操縦資格取得を目指します。なお、飛行訓練のための渡航要件は、「TOEIC®650点以上」「航空無線通信士資格取得」「事業用操縦士技能証明」「計器飛行証明」の学科試験合格及び「GPA2.5以上」です。

②学生の多様な将来目標に応えるために、「エアライン・ビジネスコース」「エアライン・ホスピタリティコース」では、科目履修の仕方を「学修ストーリー」にまとめて提示しています。

（3）学修成果の評価の在り方

①学修成果は「卒業認定・学位授与の方針」に定められた項目と、学修方法・学修過程（カリキュラム・マップ等）により示された、科目が目標とする学修の到達度が学生自身にとってどの程度であったかを示すものです。したがって学修成果は科目それぞれで設定されています。

②学修成果の評価方法は、科目ごとのシラバスにおいて具体的に示します。また、ルーブリック評価など（成功の度合いを示すレベルや、それぞれのレベルに対応するパフォーマンス（プレゼンテーション、協同作業など）の特徴を示した評価基準からなる表）を取り入れることによって、成績評価を分かりやすく可視化し、厳格に評価します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

https://www.obirin.ac.jp/academics/business_management/policy.html)

（概要）

「国際性」に優れ、「奉仕の精神」と「おもてなしの心」、「コミュニケーション能力」と「情報リテラシー」を兼ね備えた人材を育成します。

さらに、所属する企業や各種機関、コミュニティにおいて、予測不可能な様々な課題に向き合い、「マネジメント能力」を駆使して、積極的に課題解決に取り組むことのできる力を身につかせます。

特に、学修過程においては、理論と実践のバランスのとれた「マネジメント能力」を養うためにインターンシップ等の実習体験を積極的に展開していきます。

【求める学生像】

学群の教育の考えに共感し、学修や経験を通して、成長を望む人たちを国や地域を問わず求めます。

また、ここでの学びをはじめようとする人たちには、以下の素養を身につけておくことを求め、各選抜において、その資質をはかります。

- (1) 高等学校までに身につけておくべき基礎学力を有する者
- (2) 自ら進んで学ぶ強い意欲と自立心を有する者

- (3) 社会の出来事、国や地域、企業などの取り組みに強い関心を有する者
- (4) 社会と積極的に関わりを持ち、様々な課題に対して挑戦する意欲を有する者
- (5) 建学の理念を理解し、他者に奉仕し、ともに向上する意欲を有する者

学部等名 健康福祉学群

教育研究上の目的（公表方法：

https://www.obirin.ac.jp/about/information_disclosure/education_research.html#anc_01)

（概要）

専門領域における確かな知識・技術を身につけ、人々の願い、悩み、喜びに共感できる、感性豊かな人間性をそなえた健康と福祉のエキスパートの養成等を目的として、専門的な職業人養成に係る教育等を行います。

卒業の認定に関する方針（公表方法：

https://www.obirin.ac.jp/academics/health_welfare/policy.html)

（概要）

本学群は、キリスト教精神に基づいた教養豊かな識見の高い国際的人材を育成することを基本理念とし、健康福祉分野における専門的知識と技能を身につけ、グローバルな視野をもって人々の健康と福祉に貢献することを目的としています。そのため、本学群では目的実現のため編成されたカリキュラムのもと、定められた在学期間に通算 GPA1.50 以上、所定の卒業単位（「基礎教育科目」20 単位以上、「専攻科目」54 単位以上、その他「自由選択」、計 124 単位）を修得し、以下の知識、技能、能力を身につけた者に対し、卒業を認定し学士の学位を授与します。また、この「卒業認定・学位授与の方針」は、「教育課程編成・実施の方針」において具現化されており、本学群の学びは全て学園の行動指針である「学而事人(がくじじじん)（学びて人に仕える）」に結びつくようになっています。

(1) 健康と福祉及びその関連領域に関する知識・理解

グローバルな視点に立ち、多様なニーズを持つ人々の健康と福祉に寄与するための知識を身につけることができる。

(2) 人々の健康と福祉に寄与できる技能

多様なニーズを持つ人々の健康と福祉に寄与するための技能を身につけ、活用することができる。

(3) 問題発見・解決能力

課題に直面した際の対処に役立つ情報収集力、論理的・批判的思考能力を身につけ、活用することができる。

(4) コミュニケーション能力

他者の希望や苦悩を聴きとり、自分の気持ちや考えを的確に表現、伝達する力を身につけ、活用することができる。

(5) 常識とモラル

社会人として活躍するために必要な倫理観、常識とモラルを身につけ、活用することができる。

(6) 志向性・積極性

自己の可能性を最大限に活かすよう前向きに物事に臨むことができる。

(7) カウンセリング・マインド

人の気持ちを受けとめ、相手の立場に立って理解しようとする姿勢・態度を身につけることができる。

(8) チームワーク

課題を達成するために他者と協働する姿勢、態度を身につけることができる。また、共通の目標を達成するために、チーム全体の力が最大限に発揮されるように、自らの役割を果たすことができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

https://www.obirin.ac.jp/academics/health_welfare/policy.html）

（概要）

本学群は、「社会福祉専修」「精神保健福祉専修」「健康科学専修」「保育専修」の4専修で構成されています。各領域に関連する資格取得に向けた実践的なカリキュラムを中心に据えています。また、それぞれの資格に係る学修のみでなく、人間の一生を「福祉、健康、メンタルサポート」の3点から総合的に学ぶことを目標として、学群共通科目を設定しています。

(1) 教育課程の編成

①「基礎教育科目」は、本学学生として「卒業認定・学位授与の方針」に則った学修成果をあげるための基礎知識と技能を身につけるための科目で、「ガイダンス科目」及び「コア科目」によって編成しています。コア科目はキリスト教科目や、口語表現、文章表現、コンピュータ、英語、キャリアに関する科目などを中心に、学園の建学の精神、教育目標を具現化するための知識を修得します。ガイダンス科目は各専修の入門科目で、各専修の学修内容を理解する上で必要な基礎知識を習得します。

②「専攻科目」は「基礎教育科目」で得た知識・技能を踏まえ、各専修の専門分野についてさらに理解を深めるために設置する科目で、「学群共通科目」及び「専修科目」によって編成しています。学群共通科目は「福祉、健康、メンタルサポート」の幅広い視点を養うための科目で、所定の単位数を履修することを義務付けています。また、「専攻演習」や「卒業論文」、「卒業研究」といった、自己の関心を一層深め大学の学修の集大成を目指すための科目も設置しています。専修科目は専修別に設置される科目で、専門的理論や技能を身につけるための科目です。専修科目には、演習・実験・実習・実技科目があり、現場での経験も積むことができます。

③「自由選択」では、学生の多様な関心や目的を達成するために学生が自ら計画し、学内外の授業科目の中から自由に選択履修することができます。他専修、他学群、他大学等の科目を修得することで、自らの専門性をさらに深める、あるいは自身の知識の幅を広げることが可能になります。このように本学群のカリキュラムは総合大学ならではの視野の広いプロフェッショナルを育成することが可能な構成となっています。

(2) 学修方法・学修過程

教育課程の実施については、1年次にコア科目とともに各専修のガイダンス科目（社会福祉専修は「社会福祉とマネジメント」、精神保健福祉専修は「精神保健学」、健康科学専修は「健康科学論」、保育専修は「保育学」）を履修し、専門とする分野の基礎を学びます。そして1年次または2年次に、他専修のガイダンス科目や「今日の健康と福祉」「心理学」「人間関係論」など、学群共通科目を履修し、「福祉、健康、メンタルサポート」の幅広い視点を養います。さらに、各専修の専門科目である専修科目を履修することにより、専門性を強化します。自己が関心を持つ領域に焦点をあてて、

より深く学ぶために、3年次から専攻演習（ゼミ）があり、各自が関心を持つテーマでゼミ論文を作成します。ゼミ論文をさらに発展させ、大学での学びの集大成である「卒業論文」「卒業研究」に取り組むこともできます。また、「社会福祉」と「健康科学」には、マイナー制度があり、要件を満たすことによって、専門として学修したことが認められます。

(3) 学修成果の評価の在り方

①学修成果は「卒業認定・学位授与の方針」に定められた項目と、学修方法・学修過程（カリキュラム・マップ等）により示された、科目が目標とする学修の到達度が学生自身にとってどの程度であったかを示すものです。したがって学修成果は科目それぞれで設定され、シラバスに記載されています。

②学修成果がどのように評価されるのかは、シラバスにおいて具体的に評価方法を科目ごとに記載しており、授業の目標に対する学生の到達度を担当教員が厳格に評価します。また、ルーブリック評価など（成功の度合いを示すレベルや、それぞれのレベルに対応するパフォーマンス（プレゼン、協同作業など）の特徴を示した評価規準からなる表）を取り入れることによって、成績評価を分かりやすく可視化し、厳格に評価するようにします。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

https://www.obirin.ac.jp/academics/health_welfare/policy.html

（概要）

少子高齢社会や多様で高度な福祉ニーズに対応できる、健康と福祉のプロフェッショナル育成を目的としています。専門職として活躍するためには、乳幼児から高齢者までの人間の成長、発達や生活に関心を持ち、一つの専門領域にとどまらず、広い範囲の知識や技術を身につけ、多角的な観点から総合的にものごとを考える力が必要となります。

グローバル社会においては、多様性の尊重は基本理念であり、人々の願い、悩み、喜びに共感できる人間性を備え、様々な立場の人を理解し、受け入れ、共生社会の実現に貢献する実践家であることが期待されます。

そこで、学群に、「健康・スポーツ領域」「福祉・心理領域」「保育領域」の3つの学問領域、6つの専攻（健康科学・スポーツ科学・社会福祉学・精神保健福祉学・実践心理学・保育学）を配置し、マイナープログラムと併せて、自らが興味関心を抱いた専門的な学びを深めるとともに、関連領域にも学びを発展させます。

4年間の学生生活では、知識・理解を深める学びにとどまらず、体験的・実践的な学びを積み重ねることにより、社会の課題を解決する実践力を身につけます。

【求める学生像】

学群の教育の考えに共感し、学修や経験を通して、成長を望む人たちを求めます。

また、ここでの学びをはじめようとする人たちには、以下の素養を身につけておくことを求め、各選抜において、その資質をはかります。

- (1) 高等学校までに身につけておくべき基礎学力を有する者
- (2) 自ら進んで学ぶ強い意欲と自立心を有する者
- (3) 人々の健康、こころ、からだ、福祉に強い関心を有する者
- (4) 社会と積極的に関わりを持ち、様々な課題に対して挑戦する意欲を有する者
- (5) 建学の理念を理解し、他者に奉仕し、ともに向上する意欲を有する者

学部等名 グローバル・コミュニケーション学群
<p>教育研究上の目的（公表方法： https://www.obirin.ac.jp/about/information_disclosure/education_research.html#anc_01）</p>
<p>（概要） グローバル・コミュニケーション学群グローバル・コミュニケーション学類は、語学に長け、コミュニケーション能力が高く、分析や創造を伴う思考力と問題解決に向けた計画力や実行力を有する人材の養成等を目的とし、協働活動を通してグローバルリーダーシップの基礎基本を修養できる教育等を行います。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.obirin.ac.jp/academics/global_communication/policy.html）</p>
<p>（概要） 本学群は、単に外国語能力を身につけた人物ではなく、「深い教養」を身につけ、「コミュニケーション能力」と「問題解決能力」の両方を持ち合わせた人物を育成することを目的としています。具体的には、多角的な視野と知識を基に分析を行い、実行可能な解決策を提示する力、複雑な事象を具体的かつ論理的に説明・説得するための高いコミュニケーション能力を有し、能動的に問題解決を行うリーダーシップを併せ持つ人物を育成することを目的としています。</p> <p>そのため、本学群では目的実現のため編成されたカリキュラムのもと、定められた在学期間に通算 GPA1.50 以上、所定の卒業単位（「基礎教育科目」：「ガイダンス科目」10 単位含め 16 単位、「専攻科目」：「語学技能科目」36 単位、「グローバル・スタディーズ科目」36 単位、その他自由選択、計 124 単位以上）を修得し、以下の要件を満たす学生に対し、本学の教育の基本理念と「卒業認定・学位授与の方針」、「教育課程編成・実施の方針」に基づき、「学士（グローバル・コミュニケーション）」を授与します。</p> <p>(1) 自己管理能力・生涯学習力 国際社会における自分の役割を自覚し、自律的、積極的に学び続けることができる。</p> <p>(2) コミュニケーション・スキル 高い実用レベルでの外国語能力とグローバル社会で通用するコミュニケーション能力を修得している。</p> <p>(3) チームワーク・リーダーシップ・問題解決能力 国際社会における諸課題を発見し、自らの解決策を立案するとともに、協調性、主体性を持ったリーダーシップを発揮し、創造性を合わせ持つことができる。</p> <p>(4) 多文化・異文化に関する知識の理解 異文化理解、経済、政治、ジェンダーなどのテーマを学ぶことで、多様な価値観に気づき、情報を鵜呑みにするのではなく客観的に選択し、幅広い視野で物事を考えることができる。</p> <p>(5) 市民としての社会的責任 キリスト教精神に基づいた教養豊かな識見の高い国際的人材として、「学而事人(がくじじじん) (学びて人に仕える)」を実践することができる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.obirin.ac.jp/about/information_disclosure/education_research.html#anc_01）</p>

(概要)

本学群は、「卒業認定・学位授与の方針」に掲げた学修成果を得るために、その具体的取組みとしての教育課程を「基礎教育科目」、「専攻科目」及び他学群や他大学、各種技能審査等を単位認定する「自由選択」という区分に分けて編成しています。授業は、講義、演習、実験、実習、実技のいずれかの方法、又はこれらの併用により行います。また、カリキュラムの体系化のために「ナンバリング（科目ごとの関連性や難易度を示す）」を行い、科目の構造を明示し体系的な学修に役立つようにしています。このような教育課程の編成と、学修方法・学修過程、学修成果の評価の在り方を以下のように定めています。

(1) 教育課程の編成

①「基礎教育科目」は、「ガイダンス科目」及び「学群共通科目」により構成しています。「ガイダンス科目」として、外国語によるコミュニケーションに必要な総合的理解力の養成、学問、文化としてのキリスト教の理解（「グローバル・コミュニケーション入門」「キリスト教入門」）、世界情勢の全体動向の把握、リーダーシップやイノベーションマインドの養成、論理的思考力の養成、数学的能力の錬成等の各導入科目（「グローバル化と社会」「イノベーションとリーダーシップ」「論理的思考とコミュニケーション」「数的理解と統計」「第二言語修得」）を配置し、これらの科目を履修することで、専門分野を学ぶための知識を身につけていきます。また、「学群共通科目」として、言語の起源や第一・第二言語の修得方法等、言語に関する知識、心理と言語の関係、国内外の企業や団体等における活動や研修、ゼミ等幅広い科目（「応用言語学」「言語と心理」「フィールド・スタディーズ」「グローバル・リーダーシップ・セミナー」等）を配置しています。

②「専攻科目」は、徹底した語学教育により、外国での大学教育にも十分対応できる能力を身につける「語学技能科目」、及び英語・中国語・日本語による授業を展開する「グローバル・スタディーズ科目」（日本語特別専修の学生については日本語による授業）によって構成しています。

ア)「語学技能科目」は、「英語コミュニケーション科目群」「中国語コミュニケーション科目群」「日本語コミュニケーション科目群」の3つの科目群に分かれています。また、次の4点を重視して母語以外を選択して集中的に学びます。

1) スキル

4 技能（聞く、話す、読む、書く）、デジタルリテラシー、テストスキル、アカデミックスキル

2) クリティカルシンキング

考える力（情報を取捨選択し、その背景を理解し、仮説を立て、情報を統合し、明確に伝える力）

3) 学修者オートノミー

振り返り、学修目標設定、学修計画、将来目標設定、スタディスキル

4) 異文化理解

時事問題、文化背景（歴史、宗教、習慣、伝統）、多様性の受容、新しい価値観の創造

イ)「グローバル・スタディーズ科目」を「日本文化系科目群」「グローバル社会系科目群」の二つに分け、学修対象の言語を使って日本の文化や歴史・思想、世界経済、国際政治、ジェンダー等について学ぶ科目を配置しています。

(2) 学修方法・学修過程

①1～2年次は、「語学技能科目」として英語・中国語・日本語のいずれかの目標言語を、実際の使用言語として、徹底的に学びます。

②3または4セメスター目は原則として全員が留学します（日本語特別専修の学生は希望者のみ）。

③帰国後は、留学等を通じて向上した語学力を用いて、学修対象の言語（英語・中国語・日本語）で開講される授業を受けることで、日本や世界の様々な問題や課題に関する理解を深めます。

④グループプロジェクトを通じて「イノベーション」を生む能力や「リーダーシップ」を醸成するとともに、組織の中心になって活躍できる人材を育てます。本学群ではグループプロジェクトや、ディスカッションやプレゼンテーションを積極的に取り入れています。これにより、テーマに対して複数の領域や視点から総合的にアプローチする力を養います。

(3) 学修成果の評価の在り方

①学修成果は「卒業認定・学位授与の方針」に定められた項目と、学修方法・学修過程（カリキュラム・マップ等）により示された、科目が目標とする学修の到達度が学生自身にとってどの程度であったかを示すものです。したがって学修成果は科目それぞれで設定され、シラバスに記載されています。

②学修成果がどのように評価されるのかは、シラバスにおいて具体的に評価方法を科目ごとに記載しており、授業の目標に対する学生の到達度を担当教員が厳格に評価します。

専修別カリキュラム・ポリシー

1. 英語特別専修

英語特別専修をメジャーとして卒業するために必要な単位数の内訳は次のとおりです。なお、英語を母語とする（または英語が母語に準ずる）学生は、本専修をメジャーとして卒業することはできません。

基礎教育科目：ガイダンス科目 10 単位以上、合計 16 単位以上

専攻科目：語学技能科目 36 単位（受講科目言語は英語に限る。「英語 I A」「英語 I B」「英語 II A」「英語 II B」4 科目 16 単位を含む。留学先で修得した単位も認められる場合がある。）、グローバル・スタディーズ科目 36 単位（英語で開講される科目を 20 単位以上修得する必要がある。留学先で修得した単位も認められる場合がある。）、合計 72 単位以上

基礎教育科目、専攻科目、自由選択、合計 124 単位以上

入学時からの通算 GPA が 1.50 以上

2. 中国語特別専修

中国語特別専修をメジャーとして卒業するために必要な単位数の内訳は次のとおりです。なお、中国語を母語とする（または中国語が母語に準ずる）学生は、本専修をメジャーとして卒業することはできません。

基礎教育科目：ガイダンス科目 10 単位以上、合計 16 単位以上

専攻科目：語学技能科目 36 単位（受講科目言語は中国語に限る。「中国語 I A」「中国語 I B」「中国語 II A」「中国語 II B」の 4 科目 16 単位を含む。留学先で修得した単位も認められる場合がある。）、グローバル・スタディーズ科目 36 単位（中国語で開講される科目を 20 単位以上修得する必要がある。留学先で修得した単位も認められ

る場合がある。) 、合計 72 単位以上
基礎教育科目、専攻科目、自由選択、合計 124 単位以上
入学時からの通算 GPA が 1. 50 以上

3. 日本語特別専修

日本語特別専修をメジャーとして卒業するために必要な単位数の内訳は次のとおりです。なお、日本語を母語とする(または日本語が母語に準ずる)学生は、本専修をメジャーとして卒業することはできません。

基礎教育科目：ガイダンス科目 10 単位以上、合計 16 単位以上

専攻科目：語学技能科目 36 単位(受講科目言語は日本語に限る。「日本語 I A」「日本語 I B」「日本語 II A」「日本語 II B」の 4 科目 16 単位を含む)、グローバル・スタディーズ科目 36 単位(日本語で開講される科目を 20 単位以上修得する必要がある。)、合計 72 単位以上

基礎教育科目、専攻科目、自由選択、合計 124 単位以上

入学時からの通算 GPA が 1. 50 以上

4. グローバル教養専修

本専修は日本語を母語とする学生と日本語を母語としない学生では、メジャーとして卒業するための要件が異なります。日本語を母語としない学生については、どの言語が母語であるかによって履修方法が異なりますので、担当のアドバイザーと十分に相談した上で、「グローバル教養専修卒業要件表(日本語非母語話者)」を参照し、履修してください。なお、日本語を母語とする(または日本語が母語に準ずる)学生が、英語および中国語で履修の上、グローバル教養専修として卒業するために必要な単位は次のとおりです。

基礎教育科目：ガイダンス科目 10 単位以上、合計 16 単位以上

専攻科目：語学技能科目 36 単位(「英語 I A」「英語 I B」「英語 II A」「英語 II B」の 4 科目 16 単位を含む。

留学先で修得した単位を含む)、グローバル・スタディーズ科目 36 単位(英語で 12 単位以上、中国語で 12 単位以上)、合計 72 単位以上

基礎教育科目、専攻科目、自由選択、合計 124 単位以上

入学時からの通算 GPA が 1. 50 以上

入学者の受入れに関する方針(公表方法：

https://www.obirin.ac.jp/academics/global_communication/policy.html)

(概要)

グローバル化が加速する今日の社会において、高度な外国語コミュニケーション能力を基盤として、自らが関わるコミュニティの様々な課題に向き合い、積極的に課題解決に取り組むことのできる人材が必要とされています。

GC 学群では、その基礎となる高度な外国語運用能力を修得し、グローバル化した社会で増えている多文化が共存するコミュニティをよりよく機能させるために必要な専門知識を学びます。真の多文化共生社会を実現する過程で直面する問題や課題に対し、多角的な視野と専門知識をもとに思考と分析を行い、言語の壁を超えた高いコミュニケーション能力を生かして、コミュニティにおいて欠かせない存在として、課題解決に向け、共同作業の中で自己の役割を堅実に果たせる人材を育成します。

【求める学生像】

学群の教育理念に共感し、学修や経験を通して、成長を望む人たちを国や地域、背景を問わず求めます。

また、ここでの学びを始めようとする人たちには、以下の素養を身につけておくこ

とを求め、各選抜において、その資質をはかります。

- (1) 高等学校までに身につけておくべき基礎学力を有する者（特に外国語運用能力）
- (2) 自ら進んで学ぶ強い意欲と自立心を有する者
- (3) 世界の国・地域および自国に対して強い関心を有する者
- (4) グローバル社会において積極的に学修や経験に挑戦する意欲を有し、多文化共生実現に強い関心と意欲を有する者
- (5) 建学の理念を理解し、他者に奉仕し、ともに向上する意欲を有する者

学部等名 航空・マネジメント学群

教育研究上の目的（公表方法：

https://www.obirin.ac.jp/about/information_disclosure/education_research.html#anc_01)

（概要）

卓越した英語力を有し、工学等の学問分野に裏打ちされた専門性の高い確かな知識と航空の基礎となる必須の知識と技倆を併せ持った航空の分野で活躍する人材の養成を目的とした教育等を行います。

卒業の認定に関する方針（公表方法：

https://www.obirin.ac.jp/academics/aviation_management/policy.html)

（概要）

本学群では、以下の基本要件を満たす学生に対し、「学士（航空・マネジメント）」を授与します。

（1）倫理観

「高度な専門性と卓越した英語力を備えた航空の各分野で活躍できるジェネラリスト」としての社会常識やモラル、倫理観、マナーを備えること。

（2）専攻する各分野における知識・理解と論理的思考力

航空を中心としたビジネスの基本とマネジメント能力を備え、論理的な思考と意思決定ができ、自らのキャリアについて明確なビジョンを持つとともに、それぞれの専攻分野に関する高度な専門的知識や技倆を身につけ、航空分野における有用な人材となり得る能力を有すること。

（3）チームワークとリーダーシップ

自らとは異なる様々な背景を持つ人々との相互理解が可能で、相手の気持ちを思いやる豊かな人間性を持ち、組織の中で協調し、また中心的・中核的な存在として最後まで仕事をやり遂げることができること。

（4）問題解決能力

ビジネスの現場において、日々発生する様々な問題や課題を感知し、失敗を恐れることなく解決のための行動を起こすことができ、たとえ困難が生じたとしても、諦めることなく最後まで成し遂げることができること。

（5）コミュニケーション能力と多文化・異文化に関する知識の理解

航空の専攻各分野において求められる高い語学力を有すること。そのコミュニケーション能力を駆使して異文化を理解し、より広い視野に立ち、国際的なビジネスセンスを持って行動できるよう、弛ぬ努力を続けること。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

https://www.obirin.ac.jp/academics/aviation_management/policy.html）

（概要）

本学群は「卒業認定・学位授与の方針」に掲げた学修成果を得るために、その具体的取組としての教育課程を「学群指定科目」「ガイダンス科目」「外国語科目」「学群共通科目」「専門基礎科目」「専門応用科目」という区分に分けて編成し、科目は講義、演習、実習、実技といった授業方法を組み合わせた授業を開講しています。またカリキュラムの体系化のために「科目ごとの難易度等を示すナンバリング」を行い体系的な学修を役立つようにしています。本学群では航空に関連する様々な分野で活躍できる人材を育成するために、以下の基本方針をもとに、高い英語能力と高度な専門的能力の修得に向けた科目を効果的に配置しています。

（１）教育課程の編成

①高い英語能力と高度な専門性を備えた人材の育成に向け英語科目を３年次まで履修可能とし目標達成のための履修時間を確保します（フライト・オペレーションコースは除く）。専門性については航空界の世界標準ともいえる ICAO Annex 概論及び詳論から各専門分野への導入を図っています。

②国際性豊かな人材の育成に向けて本学群独自の２年次秋学期の海外研修を原則とし、提携先の大学において生きた英語を身につけると同時に、専攻に関連する授業、実習を受けられる多様な学修機会を提供しています。

③航空の各分野を幅広く理解しそれぞれの専攻に活かすため、また本学群の卒業生が将来航空界の横糸を形成する存在になるために１年次は専攻コースに分かれることなく混成クラスで横断的に航空の基礎を学びます。

「学群指定科目」

学群指定科目では、本学の教育目的として普遍的に必要な科目を中心に「キリスト教と異文化理解」「日本語表現Ⅰ」「日本語表現Ⅱ」「情報リテラシー」について、本学群の学生が共通して履修する必修科目としています。

「ガイダンス科目」

航空関係に係る専門学修の入り口となる「ICAO 概論」「航空法Ⅰ」を必修にするほか「飛行の基礎」「基礎数学」「統計入門」等の科目を配置しています。

「外国語科目」

本学群の学生全員に英語科目を必修とし、十分な学修量と学修時間を確保し TOEIC®IPT650 点を１年修了時の目標として国際化社会に対応できる英語の基礎を養います。２年次秋学期の海外研修での学びと体験を挟んで、３年次では４技能（読む・書く・話す・聞く）のスキルアップを図れるカリキュラムを組んでいます。これらの科目では入学時のプレースメントテストや TOEIC®等の外部試験を活用したテストの点数を勘案した能力別クラス編成とします。また各コースに応じて必要な専門英語を学ぶ科目も設定しています。

「学群共通科目」

「航空施設」「航空法」「航空機の仕組みと構造」等を必修としています。また海外研修中に行う科目として「フィールドワーク」「実用海外英語」を設定しています。

「専門基礎教育」

「航空気象 I」「ICAO 詳論」を必修とし「航空力学」「空中航法」をはじめヒューマンファクター、リスクマネジメント、リソースマネジメント等を学ぶ科目を配置し、すべての学生に幅広い知識を与え専攻分野に偏らない基盤を構築できるように設定しています。

「専門応用科目」

フライト・オペレーション、航空管制、整備マネジメント、空港マネジメントという 4 つの科目群により構成されるこれらの応用科目を体系的に学修することによって航空分野を目指す人材として高い能力を養成します。

「専攻演習（ゼミ）」

隣接するコースの専攻演習とのコラボレーションも含め学生主体の様々な活動の中でリソースマネジメント、リーダーシップとフォロワーシップを理解し、アクティブラーニングを実践する機会となし、コミュニケーション能力を醸成し、社会に求められる人材となるため、原則としてそれまでに学んだ学知の集大成となる論文・レポートを作成します。

（2）学修方法・学修過程

①1 年次には大学での学びのための基礎的な知識とスキルを修得します。各コースに分かれることなく航空・マネジメント学群として学んでおくべき幅広い基礎知識を修得します。加えて多角的視野を得ることを目標にした多くの授業の履修を通し、複眼的視野を育成します。

②2 年次春学期からは各専攻に分かれそれぞれの専攻科目を履修します。

③2 年次秋学期は米国での海外研修を原則としています。フライト・オペレーションコースはアリゾナ州フェニックスの桜美林学園フライト・トレーニングセンターにて飛行訓練を行います。その他の 3 コースは航空産業の集積地であるシアトルにある 3 つの大学に分かれて英語能力の向上の他、各専門分野での知識と経験を獲得します。海外研修中の授業についても、学生の語学レベルに合わせて履修するコースを用意し、レベルに合わせて言語運用能力の更なる向上を図ります。海外での研修・訓練を開始するには、TOEIC®IPT650 点を超えることが求められています。

④外国語教育は基礎的な英語 4 科目を必修とするほか、4 技能の英語スキルを修得すべく十分な教育時間を確保しています。具体的には 3 年次終了時まで英語の履修を可能にし、加えて海外研修中も英語の授業を実施して卒業時には CEFR®B2 以上を目指します。

（3）学修成果の評価の在り方

①学修成果は「卒業認定・学位授与の方針」に定められた項目とカリキュラムにより示された、科目の目標に関して履修者がどの程度到達したかを示すものです。したがって学修成果は科目夫々で設定されています。

②学修成果の評価方法は科目ごとのシラバスにおいて示されています。また科目によってはルーブリック評価（成功の度合いを示すレベルや、それぞれのレベルに対応するパフォーマンスの特徴を示した評価基準からなる表）などを取り入れることによって、成績評価を分かりやすく可視化し、厳格に評価します。

各コースの教育の目的とカリキュラムの特徴

グローバル化が進んだ現代の社会においては、航空産業は必須の産業で、その役割はますます重要になっています。日本においても毎年「観光ビジョン実現プログラム」が策定され、2030年6,000万人の訪日観光客の達成に向けて様々な取り組みが行われています。航空交通の量が増えるにつれて、パイロットや管制、整備を支える人材や、機能強化され民営化されていく空港の管理運営に携わる人材の育成が求められています。国際的な舞台で活躍し、社会の役に立つ人を育てるという建学の精神に則り、更なる変革と競争の時代を迎えようとしている我が国の航空界が求める人材を育成します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

https://www.obirin.ac.jp/academics/aviation_management/policy.html

（概要）

「航空機の操縦」、「航空管制」、「航空機の整備管理」、「空港の運営」等、航空の各分野で活躍できるプロフェッショナルを育成することを目的としています。これらの分野で活躍するためには、航空工学、種々の法規程類を理解し、かつ高い語学運用能力を兼ね備える必要があります。

さらに、経済、経営にも関心を持ち幅広く横断的な知識と高度な専門知識と技量を習得し、豊かなマネジメント能力が求められます。航空業界ひいてはグローバル社会に貢献できる人材を育成していきます。

【求める学生像】

本学群では、この教育の考えに共感し、学群での学修や経験を通して、成長を望む人たちを求めます。

また、ここでの学びをはじめようとする人たちには、以下の素養を身につけておくことを求め、各選抜において、その資質をはかります。

（１）高等学校までに身につけておくべき基礎学力を有する者（特に、外国語運用能力と数理科学に関する基礎的な知識・技能）

（２）自ら進んで学ぶ強い意欲と自律心を有する者

（３）グローバルな社会の出来事、航空業界、国や地域、関連する産業界等の取り組みに強い関心を有する者

（４）社会と積極的に関わりを持ち、様々な課題に対して挑戦する意欲を有する者

（５）建学の理念を理解し、他者に奉仕し、ともに向上する意欲を有する者

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.obirin.jp/disclosure/?id=anc01>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	4人	—					4人
リベラルアーツ学群	—	59人	26人	6人	8人		99人
芸術文化学群	—	17人	7人	8人	3人	5人	40人
ビジネスマネジメント学群	—	18人	12人	2人	2人		34人
健康福祉学群	—	18人	10人		8人		36人
グローバル・コミュニケーション学群	—	12人	9人	3人	1人		25人
航空・マネジメント学群	—	10人	5人	2人	1人		18人
大学院	—	13人	3人	1人			17人
附属研究所	—	1人		1人			2人
通信教育	—	7人					7人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		578人					578人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法：大学WEBサイト https://gproweb1.obirin.ac.jp/obuhp/KgApp					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
リベラルアーツ学群	950人	1016人	106.9%	3800人	4015人	105.7%	人	24人
芸術文化学群	400人	413人	103.3%	1600人	1602人	100.1%	人	2人
ビジネスマネジメント学群	480人	514人	107.1%	1920人	2070人	107.8%	人	20人
健康福祉学群	300人	317人	105.7%	1200人	1199人	99.9%	人	4人
グローバル・コミュニケーション学群	250人	213人	85.2%	1000人	948人	94.8%	人	4人
航空・マネジメント学群	140人	100人	71.4%	420人	290人	69.0%	人	0人
合計	2520人	2573人	102.1%	9940人	10124人	101.9%	人	54人
(備考) 編入学の定員：若干名								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
リベラルアーツ学群	915人 (100%)	43人 (4.7%)	689人 (75.3%)	183人 (20.0%)
芸術文化学群	330人 (100%)	8人 (2.4%)	188人 (57.0%)	134人 (40.6%)
ビジネスマネジメント学群	475人 (100%)	19人 (4.0%)	384人 (80.8%)	72人 (15.2%)
健康福祉学群	264人 (100%)	9人 (3.4%)	222人 (84.1%)	33人 (12.5%)
グローバル・コミュニケーション学群	248人 (100%)	15人 (6.0%)	185人 (74.6%)	48人 (19.4%)
航空・マネジメント学群	0人 (100%)	0人 (%)	0人 (%)	0人 (%)
合計	2232人 (100%)	94人 (4.2%)	1668人 (74.7%)	470人 (21.1%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
<ul style="list-style-type: none"> ・リベラルアーツ学群 : https://www.obirin.ac.jp/academics/arts_sciences/career.html ・芸術文化学群 : https://www.obirin.ac.jp/academics/performing_visual_arts/career.html ・ビジネスマネジメント学群 : https://www.obirin.ac.jp/academics/business_management/career.html ・健康福祉学群 : https://www.obirin.ac.jp/academics/health_welfare/career.html ・グローバル・コミュニケーション学群 : https://www.obirin.ac.jp/academics/global_communication/career.html 				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
リベラルアーツ学群	983人 (100.0%)	782人 (79.6%)	106人 (10.8%)	95人 (9.7%)	人 (%)
芸術文化学群	400人 (100.0%)	323人 (80.8%)	39人 (9.8%)	38人 (9.5%)	人 (%)
ビジネスマネジメント学群	492人 (100.0%)	407人 (82.7%)	50人 (10.2%)	35人 (7.1%)	人 (%)
健康福祉学群	305人 (100.0%)	252人 (82.6%)	27人 (8.9%)	26人 (8.5%)	人 (%)
グローバル・コミュニケーション学群	258人 (100.0%)	187人 (72.5%)	34人 (13.2%)	37人 (14.3%)	人 (%)
航空・マネジメント学群	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	2438人 (100.0%)	1951人 (80.0%)	256人 (10.5%)	231人 (9.5%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>授業担当教員がシラバスを登録した後、各教育組織長が点検を行う。 点検終了後、ポータルシステム「e-Campus」およびウェブサイトにて公開する。 3月に翌年度春学期および秋学期のシラバス登録期間を設け、各教育組織長点検後、3月末に公開する。3月の時点で担当者が決定していない秋学期の授業、または秋学期の内容に変更が生じた授業のシラバスについては7月に登録期間を設け、各教育組織長点検後、8月末に公開する。</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>卒業の認定に関する方針や学生の修得単位数等を踏まえ、卒業を認定している。 卒業するためには、原則として4年以上在学し、所属する学群で定めるところにより124単位以上を修得し、かつGPAが1.50以上であることを必要とする。卒業を希望する者は、当該学期の所定の期日までに、「卒業希望届」を申請する必要がある。</p>				
学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
リベラルアーツ学群		124単位	④・無	学期毎16～24単位
芸術文化学群		124単位	④・無	学期毎16～24単位
ビジネスマネジメント学群	ビジネスマネジメント学類	124単位	④・無	学期毎16～24単位
	アプリケーションマネジメント学	124単位	④・無	学期毎16～24単位

	類			
健康福祉学群		124 単位	⑦・無	学期毎 16～24 単位
グローバル・コミュニケーション学群	グローバル・コミュニケーション学類	124 単位	⑦・無	学期毎 16～24 単位
航空・マネジメント学群	航空・マネジメント学類	124 単位	⑦・無	学期毎 16～24 単位
G P A の活用状況 (任意記載事項)	公表方法 : https://www.obirin.ac.jp/about/grade_point_average.html			
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)	公表方法 : (セメスター・早期卒業制度) https://www.obirin.ac.jp/about/semester_early_graduation.html			

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法 : <https://www.obirin.ac.jp/about/campus/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
リベラル アーツ学 群		914,000円	100,000円	350,000円	(その他内訳) 施設設備費：300,000円 教育充実費：50,000円
芸術文化 学群		1,114,000円	100,000円	350,000円	(その他内訳) 施設設備費：300,000円 教育充実費：50,000円
ビジネス マネジメ ント学群	ビジネス マネジメ ント学類	914,000円	100,000円	350,000円	(その他内訳) 施設設備費：300,000円 教育充実費：50,000円
	アビエー ションマ ネジメン ト学類	914,000円	100,000円	350,000円	(その他内訳) 施設設備費：300,000円 教育充実費：50,000円
健康福祉 学群		1,034,000円	100,000円	350,000円	(その他内訳) 施設設備費：300,000円 教育充実費：50,000円
グローバ ル・コミ ュニケー ション学 群		914,000円	100,000円	350,000円	(その他内訳) 施設設備費：300,000円 教育充実費：50,000円
航空・マ ネジメン ト学群		1,204,000円	100,000円	350,000円 (※)1,550,000円	(その他内訳) 施設設備費：300,000円 教育充実費：50,000円 実験実習費(※)：1,200,000円 ※フライオ・オペレーションコ ースのみ

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) https://www.obirin.ac.jp/about/why_obirin.html ・1～3年生については、年度の学期初めにアセスメントテストの受検を義務付けており、受検学生は直ちに結果を受け取れる。フォローアップ講座では受検結果に基づき今後の授業の取り組み方について指導等を行っている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) ・3年次秋から全学生に対して個別の進路支援を行うキャリアアドバイザー制度を導入している。 ・適切な時期に業界セミナーや学内合同企業説明会などの就職支援イベントを学生に提供している。 ・キャリア教育の一環として1年次～3年次まで「キャリアデザイン」の授業を開設し、授業とイベント、個別支援を連携させながら進路支援を展開している。 ・1～3年生については、年度の学期初めにアセスメントテストの受検を義務付けており、受検学生は直ちに結果を受け取れる。フォローアップ講座では受検結果に基づき就職活動を見据えた指導等を行っている。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

心の支援として、パート事務職員、常勤・非常勤カウンセラー（臨床心理士・公認心理師等）、非常勤学校医（精神科）を配置し、週5日午前9時から午後5時で相談室を開室。個別セリングによる学生のメンタルヘルス支援を行う他、学内外機関や保護者と連携・協働しながら、学生の学修・学校生活における心理支援を行っている。

身体 の健康等に係る支援に関する取り組みについては、以下となっている。

【感染症対策】

入学時に麻しん・風しん・MR（麻しん風しん混合）ワクチン接種歴調査を行い、2回のワクチン接種が完了していない学生に対し、接種の必要性について保健指導を行うなど感染症拡大防止対策を実施している。新型コロナウイルス感染症については、学生、教職員の行動フローを作成し、感染者、濃厚接触者、接触者、体調不良者、同居者がPCR検査を受けたなどのカテゴリー別に分け、自宅待機期間（登校禁止）を設定し、その期間はオンライン授業に変更することを徹底していく事により、学内の感染症拡大防止対策を徹底、実施・継続している。

【身体的支援】

入学時の健康状態調査や日頃から身体に関する不安や心配に対し、内科学学校医、看護師が健康相談を行っており、傷病対応だけではなく身体に関するあらゆる支援を行っている。

【学生健康診断】

健康診断実施後、事後措置として二次検査が必要な学生は面接を実施し、受診指示などの保健指導を行っている。またBMI低値の学生には面談および保健指導を行うなど健康管理を行っている。

【留学派遣・受け入れ】

留学派遣者は医療情報フォームの内容を全てチェックし、必要な学生は面談を行い、医療機関から英文診断書を提出させ、留学中に困ることが無いよう支援を行っている。留学前には健康管理について事前学習を実施しており、留学前・留学中・留学後の自分自身の健康維持・管理の重要性を理解してもらい取り組みを行っている。留学生の受け入れについては、医療情報フォームや感染症のワクチン接種が完了しているかを全てチェックするなど、安心、安全な大学生活を送れるような取り組みを継続している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：https://www.obirin.ac.jp/about/information_disclosure/menu.html

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F113310103698
学校名	桜美林大学
設置者名	学校法人桜美林学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		747人	712人	774人
内 訳	第Ⅰ区分	443人	428人	
	第Ⅱ区分	187人	181人	
	第Ⅲ区分	117人	103人	
家計急変による支援対象者（年間）				6人
合計（年間）				780人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	—		
修得単位数が標準単位数の5割以下 （単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下）	—		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人		
「警告」の区分に連続して該当	—		
計	20人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（2）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑つて認定の効力を失つた者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
年間	0人	前半期	後半期

（3）退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	—		
GPA等が下位4分の1	125人		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人		
計	125人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。